

第77回全国植樹祭奈良県実行委員会 設立趣旨

奈良県は、県土の約八割を森林が占め、春日山の原始林、大峯奥駈道などの山岳景観を有する森林、吉野の人工美林など多様で貴重な森林を有しています。

特に林業の歴史は古く、江戸時代には現代に通じる人工林育成による循環型林業が成立しており、全国の森林が荒廃した時期にあっても森林を守ってきたことから、現在においても、他の地域ではほとんど見られない200～300年生の人工林の大径木が多数残っています。

一方、近年の地球温暖化の進行などに伴い、森林の公益的機能への期待が大きく高まっていますが、同時に、これまで奈良県の豊かな森林を守り育ててきた林業を取り巻く社会経済情勢もまた、大きく変化しています。森林の様々な機能をいかなる状況の下でも将来にわたって発揮し続けさせるためには、森林資源の循環利用に重きを置くこれまでの考え方を時代に合わせて発展させ、森林と人とのかかわり方に応じて、自然の力を引き出しながら、地域の特性に応じた森林の姿に導いていけるような、新しい挑戦が必要です

こうした中で、令和9年春に「第77回全国植樹祭」を本県で開催することは、極めて意義深いものであります。

この「第77回全国植樹祭」では、伝統的な育林技術と木工技術が一体となり発展した「木の文化」を後世に伝えていくとともに、森林と人との恒久的な共生を図るための取組を一層進める契機とし、奈良県の豊かな自然や歴史文化等の魅力を全国に向けて発信し、全国から訪れる多くの参加者が、奈良県にまた来たいと思われるような温かみのある大会とするため、県内の幅広い機関、団体の参画のもと、植樹祭の成功に向け「第77回全国植樹祭奈良県実行委員会」を設立します。

令和6年11月19日